

■ 野外活動のための安心・安全講座

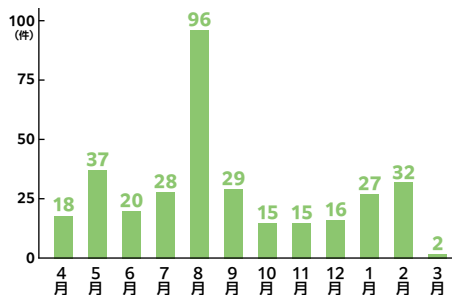
2019（令和元）年度

# そなえよつねに共済 事故データ分析

「そなえよつねに共済」で取り扱った事故データ分析の結果をまとめましたので報告いたします。2012年度から全加盟員が保険（2014年度からは共済）対象となり、ボーイスカウト全体における事故の傾向が把握できるようになりました。事故発生件数（報告件数）は前年度と同様の335件で、傷病の延べ数は495件でした。いくつか気づいた点をコメントしましたので、安全管理の参考にいただければ幸いです。

## 発生月別

■ 月別事故発生件数 (n=335)

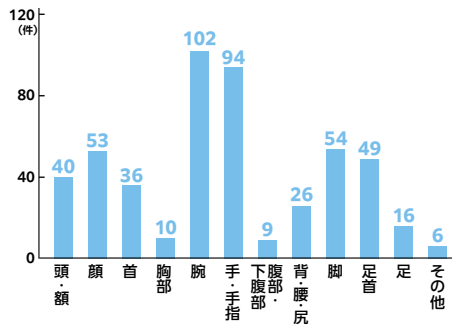


8月に事故事例が多い傾向は例年と同様で、全事故件数の約28.7%を占めています。8月の事故を分析すると、前年度(2018年度: 63件)より33件増加の96件で、そのうち88件が夏季活動(野営や倉営)中に発生しています。薪割り中の切り傷や火起こし中のやけどなどがみられますが、ハチやブユ、ダニによる虫刺され等も数多く報告されています。服装に注意を払うことや、害虫対策を行うことが必要です。

3月の事故発生件数が極端に低くなっていますが、これは新型コロナウイルスによる活動数の低下によるものだと思います。

## 部位別（延べ数）

■ 部位別事故発生件数 (n=495)



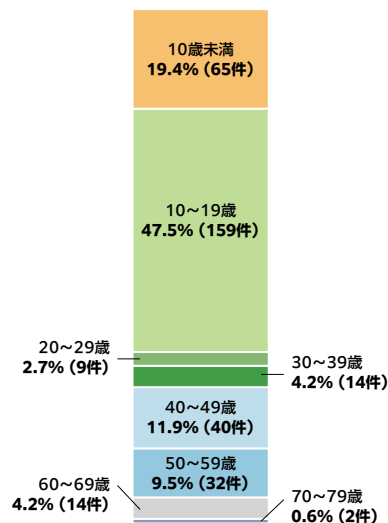
昨年からの傾向ですが、頭や顔に対する受傷数が減少しています。一方、腕や手、手指に対する受傷数が前年度(161件)より35件増加の196件となっています。腕はスキー、スノーボード、スケートなどの冬季活動中の受傷が多くなっており、内容としては骨折などがあげられます。

また手や手指において気になることは、左手指の受傷数が右手指の3倍にのぼることです。内容を見ると、薪割り中や調理中の受傷が多くなっています。これは右利きの人が多いこと由来すると思われます。薪割りや調理の際の注意事項を今一度確認し、十分にスカウトを指導してください。

## 年代別

年代別では、19歳までの割合が約70%にあたる224人でした。20代9人、30代14人と少数ですが、40代40人、50代32人、60代14人となっており、70代でも2人の事故報告がありました。

■ 年代別事故発生割合 (n=335)

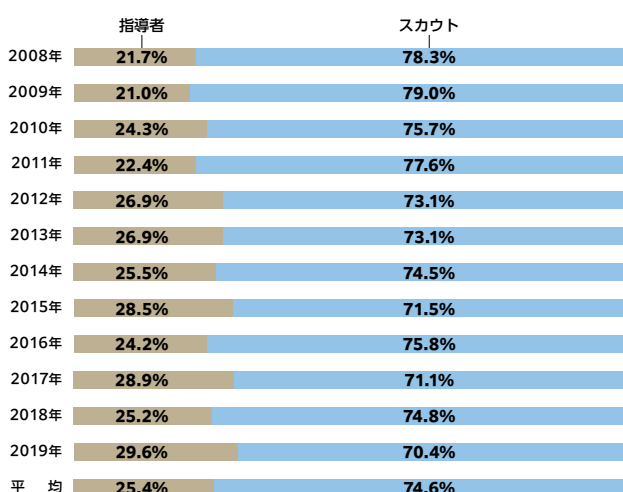


## 部門別

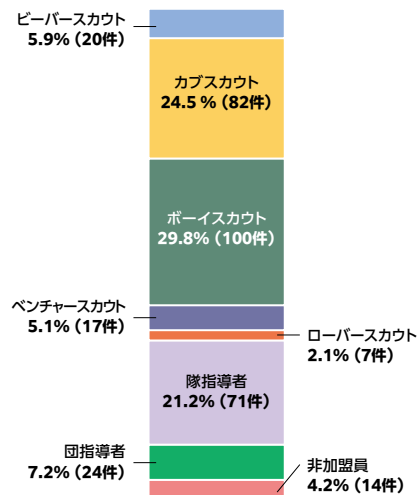
部門別の傾向は、ビーバースカウトが0.7%減少、カブスカウトが1.5%減少、ボーイスカウトが1.5%減少、ベンチャースカウトが4.1%減少、ローバースカウトが0.9%増加しました。

全事故に占める割合(非加盟員を除く)は、スカウト全体で70.4%と、前年度より4.4%減少しました。一方、指導者の割合は29.6%と、前年度より増加しています。

■ 指導者/スカウトの事故発生割合の変化 (n=全体数335-非加盟員14)



■ 部門別事故発生割合 (n=335)



## 部門別 上位3傷病

	1位	2位	3位
ビーバースカウト	打撲(6件)	裂けた傷/骨折/脱臼・捻挫・靭帯損傷(各3件)	刺し傷/やけど(各2件)
カブスカウト	骨折(23件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷(15件)	裂けた傷/切り傷/打撲(各12件)
ボーイスカウト	切り傷/骨折(各20件)	やけど(10件)	裂けた傷/打撲(各7件)
ベンチャースカウト	骨折(8件)	切り傷(6件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷/打撲/やけど(各2件)
ローバースカウト	打撲(3件)	骨折(2件)	切り傷/脱臼・捻挫・靭帯損傷(各1件)
指導者	骨折(42件)	打撲(25件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷(21件)

## 活動内容

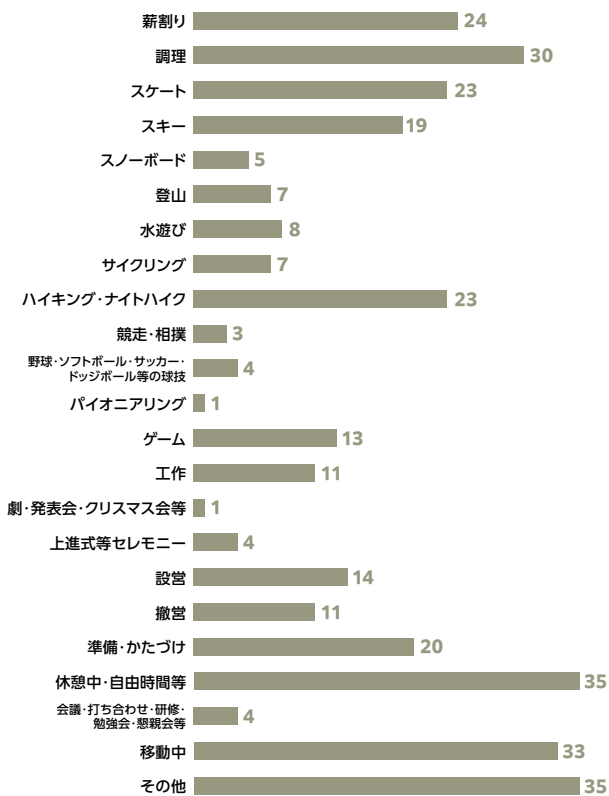
ビーバースカウト部門での事故1位は「移動中」で7件、2位は「休憩中・自由時間等」で4件でした。移動中は帰宅前後の時間などに発生しています。全発生件数が20件のビーバースカウト部門において、半数以上は活動外（プログラム以外の時間）で発生しています。活動前後や休憩時間も十分な安全対策を講じることが必要です。

カブスカウト部門での事故1位は「休憩中・自由時間等」で12件、2位は「スケート」で10件でした。ビーバースカウト部門と同様に、活動外の時間での発生もみられますが、多くの発生が活動中になります。

ボーイスカウト部門での事故1位は「薪割り」で15件、2位は「休憩中・自由時間等」で14件でした。薪割りでの件数は昨年度よりも増加しています。保護具の着用などの教育はもちろんですが、なぜ着用する必要があるのかなどの理由を明確にして指導することも必要です。

ベンチャースカウト部門での事故1位は「スノーボード」「移動中」でそれぞれ3件でした。ローバースカウト部門での事故1位は「スキー」「移動中」でそれぞれ2件。指導者の事故1位は「準備・かたづけ」で10件、2位は「スキー」「ハイキング・ナイトハイク」でそれぞれ9件でした。

■ 活動内容と事故発生件数 (n=335)



■ 部門別 最も事故が多かった活動内容

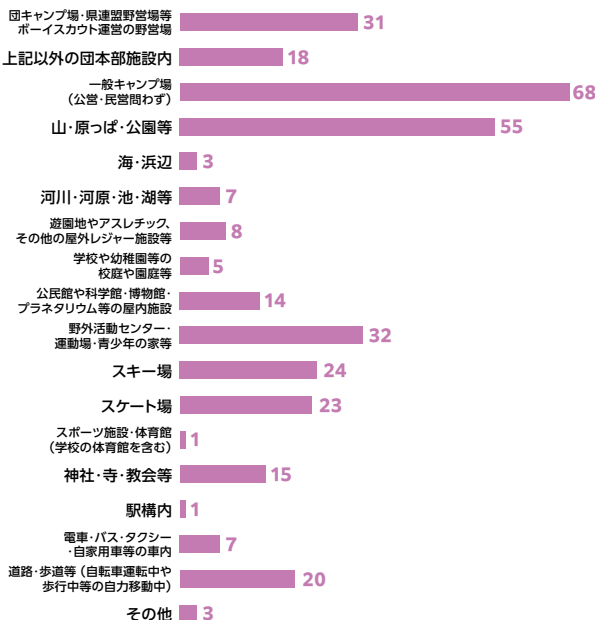
	プログラム
ビーバースカウト	移動中 (7件)
カブスカウト	休憩中・自由時間等 (12件)
ボーイスカウト	薪割り (15件)
ベンチャースカウト	スノーボード/移動中 (各3件)
ローバースカウト	スキー/移動中 (各2件)
指導者	準備・かたづけ (10件)

## 発生場所

事故の発生場所として最も多かったのは「一般キャンプ場」でした。ついで「山・原っぱ・公園等」です。前年度と傾向は変わりません。野外での活動が増えることで、事故発生の可能性が高くなるということを今一度理解する必要があります。

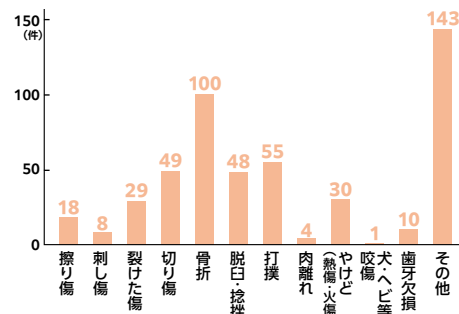
また、移動中の事故発生も多くなっていることがわかります。交通事故など命に関わるものも発生していますので、十分注意することが必要です。

■ 発生場所と件数 (n=335)



## 傷病別 (延べ数)

■ 傷病別事故発生件数と事故割合 (n=495)



傷病別では、「骨折」の割合が最も多く、前年度 (94件) より6件増加の100件で第1位でした。第2位は「打撲」で、前年度 (45件) から10件増加の55件でした。第3位の「切り傷」は前年度 (68件) から19件減少の49件でした。これら3傷病で全傷病の41.2%を占めています。

「骨折」は、うち32件が指導者によるものでした。スカウトの骨折の場合、入院は長くとも10日程度でしたが、指導者の場合は1か月以上入院するケースもみられます。「骨折」は、スカウト活動のみならず、日常生活にも大きな影響を及ぼしますので、十分注意しましょう。

また、「その他」の中で気になったのが、ハチやブユ、ダニによる虫刺されです。前年度に比べても増加しています。服装や害虫対策などに十分に配慮してください。

## まとめ

共済事業に移行して6年。全体的な傾向は大きく変わりませんが、いくつか気になった点があります。各項目について、過去の本誌で参考になるものを示しますので、こちらもあわせてご覧ください。

ひとつは、虫刺されによる受傷が増加傾向にあることです。蚊やダニなどは、節足動物媒介感染症 (蚊やダニなどから伝播される寄生虫、ウイルス、細菌などによって人に起こる疾患のこと) を引き起こす可能性があります。活動時に「長袖を着る」「虫除けスプレーなどの防虫剤を塗る」「蚊取り線香等を焚く」などして、虫刺され受傷の低減に努めてください。[参考: 本誌2016年7月号「地球温暖化と安全」]

次に、休憩中の事故発生の再度防止徹底のお願いです。ビーバースカウトやカブスカウトにとって、休憩時間は自由時間です。休憩時間中の活動範囲をあらかじめ明確に指定する、指導者や保護者の協力を得て、休憩時間中も安全管理を十分に行うなどして事故の防止に努めてください。[参考: 本誌2014年9月号「休憩・自由時間中の事故」]

最後に、指導者の事故発生件数の増加です。件数、割合ともに増加傾向が続いています。指導者の受傷は重症化しやすく、完治までの期間も長くなります。安全対策を十分に行い、無理をせず、他の指導者や保護者、関係者と協力をしながらスカウト活動を行っていただければと思います。[参考: 本誌2011年9月号「減少しない指導者の事故」、2011年11月号「指導者自身の安全の確保を」]

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会